

教科名	国 語	科目名	論 理 国 語		必 修
科 別	普 通	科 学 年	3 年	コース名	進 学 コース 4 単位 文 系
教 科 書 (発 行 所)	精選論理国語(明治書院)				
副 教 材 (発 行 所)	評論速読トレーニング1500、1000(数研出版)、天声人語書き写しノート 学習用(朝日新聞出版)、四訂版3ランク方式 基礎からのマスター大学入試漢字TOP2000(いづな書店)				

学 習 目 標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力を伸ばす。他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。	
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	論理的な文章における語彙の量を増やす。 文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解している。
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	論理的に文章を読み、文章や資料等の情報の正誤や適否を吟味しつつ考えることができる。 批判的に考える力を養い、他者と伝え合うための読解力・文章力を伸ばすようにする。
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況を見て教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	①都市・建築 近代都市のレトリック(陣内秀信)	・論理的な文章を読み、その展開を捉え、要旨を把握する。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。	春季課題提出
	5	②メディア 視覚の生命力(柏木博) 単元の言語活動 書くこと 主張を支えるデータをそろえよう	・論理的な文章を批評する活動を通して、積極的に言葉の働きについて理解を深め、学習の見直しをもって根拠をそろえるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 ・意見文を書く活動を通して、粘り強く推論について理解を深め、今までの学習を生かして根拠をそろえるなかで、自らの学習を調整する。	中間考査
	6	③歴史 歴史を哲学する(野家啓一) ④社会・体験 語りと実在のつながり(岸政彦)	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	
	7	単元の言語活動 読むこと 比較読みをしよう	・複数の文章を読み比べ、内容の解釈を深める。 ・推論の仕方について理解を深める。 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	⑤言語 記号論への招待(池上嘉彦) 消えゆく言語・方言を守るには(木部暢子)	・筆者があげる「言語創造」「ことばの牢獄」の両側面を自分の生活に即して説明しながら、自らの考えを述べる。 ・「言葉」についての自分の考えを、主張を明確にしたうえでまとめる。	夏季課題提出
	10	⑥平等・制度 デモクラシーと平等(齋藤純一)	・「平等」についての文章や資料を読み、自分の考えを論述する。	中間考査
	11	⑦近代・現代 私の個人主義(夏目漱石) 入試対策演習	・「自己本位」「個人主義」についての筆者の考えをまとめてみよう。まとめた筆者の考えについて、現代と比較しながら自分の考えをまとめる。さらに、クラスやグループで交換し、構成や展開について批評し合う。	
	12	入試対策演習	大学入試共通テストに特化した選択問題・記述問題の問題演習及び、私大の過去問題を中心とした記述の問題演習。ALで内容合致不致問題に取り組む。最初に正解を伝え、その論拠をグループで話し合うことで、自分の考えを論点を明確にして述べることで主体性を身につける。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	国 語	科目名	論 理 国 語		必 修
科 別	普 通	科 学 年	3 年	コース名	進 学 コース 3 単位
教 科 書 (発 行 所)	精選論理国語(明治書院)				
副 教 材 (発 行 所)	現代文読解標準ドリル(駿台文庫)、小説速読トレーニング基礎(数研出版)、天声人語書き写しノート 学習用(朝日新聞出版)、四訂版3ランク方式 基礎からのマスター大学入試漢字TOP2000(いっすな書店)				

学 習 目 標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力を伸ばす。他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。	
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	論理的な文章における語彙の量を増やす。 文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解している。
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	論理的に文章を読み、文章や資料等の情報の正誤や適否を吟味しつつ考えることができる。 批判的に考える力を養い、他者と伝え合うための読解力・文章力を伸ばすようにする。
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	①都市・建築 近代都市のレトリック(陣内秀信)	・論理的な文章を読み、その展開を捉え、要旨を把握する。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。	春季課題提出
	5	②メディア 視覚の生命力(柏木博) 単元の言語活動 書くこと 主張を支えるデータをそろえよう	・論理的な文章を批評する活動を通して、積極的に言葉の働きについて理解を深め、学習の見直しをもって根拠をそろえるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 ・意見文を書く活動を通して、粘り強く推論について理解を深め、今までの学習を生かして根拠をそろえるなかで、自らの学習を調整する。	中間考査
	6	③歴史 歴史を哲学する(野家啓一)	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	
	7	④社会・体験 語りと実在のつながり(岸政彦)	・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	⑤言語 記号論への招待(池上嘉彦)	・筆者があげる「言語創造」「ことばの牢獄」の両側面を自分の生活に即して説明しながら、自らの考えを述べる。 ・「言葉」についての自分の考えを、主張を明確にしたうえでまとめる。	夏季課題提出
	10	⑥平等・制度 デモクラシーと平等(齋藤純一)	・「平等」についての文章や資料を読み、自分の考えを論述する。	中間考査
	11	⑦近代・現代 私の個人主義(夏目漱石) 入試対策演習	・「自己本位」「個人主義」についての筆者の考えをまとめてみよう。まとめた筆者の考えについて、現代と比較しながら自分の考えをまとめる。さらに、クラスやグループで交換し、構成や展開について批評し合う。	
	12	入試対策演習	大学入試共通テストに特化した選択問題・記述問題の問題演習及び、私大の過去問題を中心とした記述の問題演習。ALで内容合致不都合問題に取り組む。最初に正解を伝え、その論拠をグループで話し合うことで、自分の考えを論点を明確にして述べることで主体性を身につける。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	国 語	科目名	文 学 国 語		必 修
科 別	普 通	科 学 年	3 年	コース名	進 学 コース 3 単位 文 系
教 科 書 (発 行 所)	精選文学国語(明治書院)				
副 教 材 (発 行 所)	小説速読トレーニング 基礎(数研出版)、一問一答日本文学史ノート(桐原書店)、四				

学 習 目 標	文学作品を読むことを通して深く共感・想像する力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者と伝え合う力を高める。
観 点	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句を知り、語彙を豊かにしている。 教科書の文章の種類や特徴について理解を深め、文体や表現技法を体系的に理解し使えている。
別 評 価	文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解している。 言語文化の特質について理解を深め、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしている。 書くこと・読むことを通して言語文化の特質について理解を深めている。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしていたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況を見て教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 都市と移動 歩道橋の魔術師(呉明益/天野健太郎訳)	・登場人物の感性が表れている個所について指摘し、表現の効果について考える。 ・作品中に出てくる台北の街や食べ物について調べ、異文化理解を深める。	春季課題提出
	5	2 自然を見る、自己を見る 流れる髪(永瀬清子) 羨望(伊東静雄)	・詩の中で用いられている多彩な比喩表現に触れ、その豊かさを味わうとともに、表現技法と内容との関係性を分析的に捉える力を養う。 ・比喩表現を用いて、自分自身の性格や、学校生活に対する自分の考えを表現する。	中間考査
	6	3 文学と歴史 舞姫(森鷗外)	・歴史的な文脈の中に作品を置き、批評性や問題意識をつかむ。 ・時代状況が現れている部分はどこであるか考えることを通して、粘り強くそれが作品のテーマとどのようにかかわっているかを捉えようとしている。	
	7	4 自他への配慮 アイデンティティ(藤井可織)	・「アイデンティティ」が比喩的に表されていると考えられる表現を本文中から抜き出すことを通して、小説作品の比喩や象徴に注目し、粘り強く表現の特徴を理解しようとしている。 ・小説作品の比喩や象徴に注目する。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	5 抒情の探究 短歌十四首	・作品の解釈を踏まえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深める。 ・アンソロジーを作成して発表し合い、互いに批評することで、作品への理解を深める。	夏季課題提出
	10	6 近現代を問う 日本文化私観(坂口安吾)	・時代や社会との対話によって生まれてきた文学の歴史性を理解し、既存の価値観を相対化する視座を獲得する。 ・近代以降の世界が抱える諸問題について、文学の言葉を媒介にしながら思考し、自分自身の関心に接続する。	中間考査
	11	“単元の言語活動6 ◆近現代の諸問題と対話する”	・時代や社会との対話によって生まれてきた文学の歴史性を理解し、既存の価値観を相対化する視座を獲得する。	
第 2 学 期	12	入試対策演習	大学入試共通テストに特化した選択問題・記述問題の問題演習及び、私大の過去問題を中心とした記述の問題演習。ALで内容合致不致問題に取り組む。最初に正解を伝え、その論拠をグループで話し合うことで、自分の考えを論点を明確にして述べることで主体性を身につける。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	国語	科目名	古典探究		必修
科別	普通	科 学 年	3 年	コース名	進学 コース 3 単位
教科書(発行所)	精選古典探究古文編(明治書院)、精選古典探究漢文編(明治書院)				
副教材(発行所)	読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版・基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版演習ノート(桐原書店)				

学 習 目 標	日本文化の特質や、中国など諸外国の文化との関係について理解を深め、言葉がもつ文化の継承・発展・創造に寄与する働きを学ぶ。	
観 点 別 評 価	知識・技能	古典に用いられる語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	思考・判断・表現	古典の文章に表れているものの見方・感じ方・考え方をふまえ、自分の考えを広げたり深めたりしている。古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品の価値について考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	【古文編】 ◇説話 宇治拾遺物語「清明の術比べ」 ◇文法の復習(助詞、助動詞、敬語、和歌の技巧)	・説話の面白さに親しみ、平安期の人々の生き方や考え方を学ぶ。 ・語彙、助動詞の知識を深める。 ・ジグソー法で文法問題に取り組む。各自担当部分を予習し発表する。 自分の考えを明確に説明することで、思考力、表現力を身につける。	春季課題提出
	5	【漢文編】 ◇思想・諸子百家「孟子 性善」「荀子 性悪」 【古文編】 ◇日記 和泉式部日記「夢よりも儂き世の中を」	・漢文訓読の決まりを理解し、諸子百家の有名な思想を味わう。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・日記を読み、作者の境遇を確かめながら心情を理解する。 ・作者のものの見方、感じ方を知り、日記の世界を読み味わう。	中間考査
	6	【漢文編】 ◇史話・史伝 史記「刎頸之交」 【古文編】 ◇物語 大鏡「道真の左遷」	・句形や漢字の意味・用法を理解する。歴史書の面白さを読み味わう。 ・登場人物の生き方や考え方を理解し、関心を深める。 ・歴史物語を読み、古典の受け継がれ方や受け入れられ方を学ぶ。 ・平安貴族の美意識や人間関係観を読み取る。	
	7	入試対策問題	大学入試共通テストに特化した選択問題及び、私大の過去問題を中心とした記述の問題演習。ALで内容合致不致問題に取り組む。最初に正解を伝え、その論拠をグループで話し合う。自分の考えを論点を明確にして述べることで主体性を身につける。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	【古文編】 ◇物語 源氏物語「物の怪の出現(葵)」 さまざまな『源氏物語』の現代語訳	・物語の筋の展開や場面の状況、作中人物の心理(光源氏、葵上、六条の御息所)を読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・「物の怪の出現」の内容をもとに、近現代の作家による『源氏物語』の現代語訳を比較し、生涯にわたって古典に親しむ態度を養う。	夏季課題提出
	10	【漢文編】 ◇「長恨歌」と日本文学 漢詩「長恨歌」 ※参考:源氏物語「桐壺」・枕草子「木の花は」	・長編の古詩にうたわれた内容を読み取り、物語的な面白さを味わう。 ・「長恨歌」が日本文学に与えた影響について理解する。 ・「長恨歌」と日本の古文を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について考察し、発表する。	中間考査
	11	【古文編】 ◇評論 源氏物語玉の小櫛「もののはれの論」 古文に関する評論「源氏物語を読む」	・物語論を精読し、その論旨を的確に読み取る力を養う。 ・評論における個人のものの見方、感じ方、考え方の特色を理解する。 ・協働的な問題発見の場面を経験することで、思考力を磨く。 ・表現を確認しながら評論の論理性を理解する。	
	12	大学入学共通テスト演習	大学入試共通テストに特化した選択問題及び、私大の過去問題を中心とした記述の問題演習。ALで内容合致不致問題に取り組む。最初に正解を伝え、その論拠をグループで話し合う。自分の考えを論点を明確にして述べることで主体性を身につける。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名 **地理歴史** 科目名 **日本史研究** **必修選択**

科別 **普通科** 科 学年 **3** 年 コース名 **選抜α・選抜・進学** コース **5** 単位 **文系**

教科書（発行所） **詳説日本史(山川出版社)**

副教材（発行所） **図説 日本史通覧(帝国書院)・新日本史要点ノート(啓隆社)**

学習目標	歴史総合での学習を踏まえ、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
観点別評価	<p>知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況を見て教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 【探究】五箇条の誓文と国是 / 貿易の変遷からみる日本の近代・現代	確認テスト
	5	第13章 近代国家の展開	1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立 3 日清・日露戦争と国際関係	中間考査
	6	第14章 近代の産業と生活	1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	
	7	第15章 恐慌と第二次世界大戦①	1 恐慌の時代	期末考査 課題学習
第2学期	9	第15章 恐慌と第二次世界大戦②	2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	夏季課題提出 確認テスト
	10	第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代	1 占領と改革 2 冷戦の開始と講話 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	中間考査
	11	第18章 激動する世界と日本	1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容 【探究】様々な災害と日本	
	12	共通テスト対策	過去問題の演習と解説	期末考査
第3学期	1			
	2			
	3			

教科名 **地理歴史** 科目名 **世界史研究** **必修選択**

科別 **普通科** 科 学年 **3** 年 コース名 **選抜α・選抜・進学** コース **5** 単位 **文系**

教科書（発行所） **「世界史探究」実教出版**

副教材（発行所） **「最新世界史図説 タペストリー 二十一訂版」(帝国書院)「新世界史要点ノート」(応用)**

学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
観点別評価	観心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	
	思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	
	資料活用の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	
	知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	
留意事項	ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。	イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。	ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史が捉えられることに気付かせる。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編	1 中央ユーラシア諸民族と東アジアの変容 2 モンゴル帝国の成立 3 東南アジア諸国の再編 4 海域世界の展開と大交易圏の成立 大交易圏の成立とムスリムネットワーク	
	5	第8章 大交易時代 第9章 アジア諸地域の帝国	1 明と東アジア 2 ヨーロッパの海外進出 3 大交易時代の海域アジア ●16世紀の世界 ―銀がつくる世界の一体化 1 中央ユーラシアと西アジアの帝国 2 南アジアの帝国	中間考査
	6	第9章 アジア諸地域の帝国 第10章 近世ヨーロッパの形成と展開	3 東南アジア諸国の発展 4 清と東アジア 1 ルネサンスと宗教改革 2 主権国家体制の成立	
	7	第10章 近世ヨーロッパの形成と展開	3 激化する覇権競争 ●16～19世紀の世界 ―奴隷貿易・奴隷制からみる世界史 4 近世ヨーロッパの社会と文化	期末考査 課題学習
第2学期	9	第11章 産業革命と大西洋革命 第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	1 イギリスの産業革命 ●19世紀前半の世界 ―「パクス=ブリタニカ」の世界 2 南北アメリカの革命 3 フランス革命とナポレオン帝政 1 ウィーン体制と1848年の革命 2 19世紀後半のヨーロッパとアメリカ	夏季課題提出 確認テスト
	10	第13章 地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗 第14章 第一次世界大戦と諸地域の変容	3 19世紀後半から20世紀初頭の社会と文化 1 ヨーロッパの帝国主義 2 アメリカの帝国主義 3 西アジアの改革運動 4 アフリカの分割と抵抗 5 インドの植民地化と民族運動 6 東南アジアの植民地化と民族運動 7 東アジアの国際関係の再編 1 第一次世界大戦 2 ヴェルサイユ体制と国際協調 3 アジアのナショナリズムの台頭	中間考査
	11	第15章 第二次世界大戦と戦後の国際秩序 第16章 冷戦と現代世界	1 世界恐慌とファシズム 2 満洲事変と日中戦争 3 第二次世界大戦 4 戦後の変革と冷戦のはじまり 1 冷戦下の安全保障体制 2 脱植民地化と非同盟 3 冷戦の終結と現代世界	
	12	第17章 世界経済の展開 第18章 科学技術の時代と知識基盤社会	1 冷戦と経済統合 2 第三世界の経済 3 産業構造と社会の変化 4 グローバル化と新自由主義の時代 1 地球環境の未来 2 バイオ・生命科学と私たちの生 3 ICTの発達と情報社会 4 知識基盤社会の形成 5 科学技術と平和	期末考査 課題学習
第3学期	1			
	2			
	3			

教科名	公民	科目名	政治・経済	必修					
科別	普通	科 学年	3 年	コース名	選 進	コース	2	単位	文理共通
教科書(発行所)	政治・経済(東京書籍)								
副教材(発行所)									

学 習 目 標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
観 点 別 評 価	知 識・技 能	現代の政治・経済にかかわる基本的な事項を理解し、その知識を身につけている
	思考・判断・表現	現代の政治・経済にかかわる事項から課題を見出し、多面的・多角的に考察して、その結果について適切に表現している
	主体的に学習に取り組む態度	現代の政治・経済にかかわる事項に対し関心をいだし、意欲的に課題を追求する姿勢をもっている
留 意 事 項	「公共」の既習事項および大学入試問題の傾向を踏まえ、工夫しながら指導していく	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済	1. 経済活動の意義 2. 資本主義経済の発展と変容	
	5	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済	2. 資本主義経済の発展と変容	中間考査
	6	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 2節 現代経済のしくみ	1. 経済主体と経済の循環 2. 生産のしくみと企業 3. 市場経済の機能と限界 4. 国民所得と経済成長	
	7	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 2節 現代経済のしくみ	4. 国民所得と経済成長 5. 金融のしくみと機能 6. 財政のしくみと機能	期末考査
第 2 学 期	9	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 3節 日本経済の発展と現状	1. 戦後日本経済の発展 2. 日本経済の現状	
	10	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 2節 複雑化する国際政治と日本	1. 戦後国際関係の展開と日本 2. 冷戦後の国際関係と日本 3. 地域主義の動き	中間考査
	11	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 2節 複雑化する国際政治と日本	4. 軍縮の動向と課題 5. 紛争・難民・テロリズム 6. 国際社会における日本の役割	
	12	第2編 グローバル化する国際社会 第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済	1. 貿易と国際収支 2. 戦後国際経済体制の展開 3. 発展途上国の経済	期末考査
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	数 学	科目名	数 学 III	理系必修					
科 別	普 通	科 学 年	3 年	コース名	進 学	コース	4	単位	理 系
教科書(発行所)	深進数学III(啓林館)								
副教材(発行所)	GraspIII(啓林館)								

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。		
観 点 別 評 価	知 識・技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。	
	思 考・判 断・表 現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。	
	主 体的に学 習 に取 り組 む態 度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。	
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況を見て教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 数列の極限 第1節 無限数列 第2節 無限級数	無限数列と極限 無限等比数列 無限級数・無限等比級数 無限級数の性質	
	5	第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数 第2節 関数の極限と連続性	分数関数 無理関数 関数の連続性 連続関数の性質	中間考査
	6	第3章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	微分可能性と連続性 微分と導関数 合成関数と逆関数の微分法 三角関数の導関数	
	7	第2節 いろいろな関数の導関数	対数関数・指数関数の導関数 高次導関数	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3節 導関数の応用 第4節 いろいろな応用	接線・法線の方程式 平均値の定理 関数の増減・第2次導関数とグラフ 最大・最小	夏季課題提出 確認テスト
	10	第4節 いろいろな応用	方程式・不等式への応用 速度と加速度 関数の近似式	中間考査
	11	第4章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分	不定積分 置換積分と部分積分 定積分 定積分と微分・区分求積法と定積分	
	12	第3節 積分の応用 受験対策演習	面積 体積 曲線の長さ	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	数 学	科目名	数 学 C	理系必修				
科 別	普通	科 学 年	3 年	コース名	進 学	コース	2 単位	理 系
教科書(発行所)	深進数学C(啓林館)							
副教材(発行所)	GraspB+C(啓林館)							

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。		
観 点 別 評 価	知 識・技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。	
	思 考・判 断・表 現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。	
	主 体的に学 習 に取 り組 む態 度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。	
留 意 事 項	単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況を見て教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第2章 複素数平面 第1節 複素数平面	複素数平面 複素数の極形式	中間考査
	5	第1節 複素数平面	ド・モアブルの定理	
	6	第2節 平面図形と複素数	平面図形と複素数	期末考査 課題学習
	7	第2節 平面図形と複素数	等式の表す図形	
第 2 学 期	9	第3章 平面上の曲線 第1節 2次曲線	放物線 楕円 双曲線	夏季課題提出 確認テスト
	10	第1節 2次曲線	2次曲線の平行移動 2次曲線と直線の共有点 2次曲線と離心率	中間考査
	11	第2節 媒介変数と極座標	曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式	期末考査 課題学習
	12	第2節 媒介変数と極座標	いろいろな曲線	
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	数 学	科目名	数 学 演 習 I	理系必修					
科 別	普 通	科 学 年	3 年	コース名	進 学	コース	2	単位	理 系
教 科 書 (発 行 所)	深進数学C(啓林館)								
副 教 材 (発 行 所)	GraspB+C(啓林館)								

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。		
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。	
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。	
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。	
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をもて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 ベクトル 第1節 ベクトルと演算	ベクトル ベクトルの和、差、実数倍 ベクトルの成分	
	5	第1節 ベクトルと演算	ベクトルのなす角 三角形の面積	中間考査
	6	第2節 ベクトルと図形	位置ベクトル 位置ベクトルと図形	
	7	第2節 ベクトルと図形	ベクトル方程式	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2節 空間のベクトル	空間の点の座標 空間のベクトル	夏季課題提出 確認テスト
	10	第2節 空間のベクトル	空間のベクトルの内積 位置ベクトル	中間考査
	11	入試問題演習	1年生から3年生の復習と演習	
	12	入試問題演習	1年生から3年生の復習と演習	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	理 科	科目名	物 理	必修選択
科 別	普 通	科 学 年	3 年	コース名
				進 学
				コース
				4 単位
理 系				
教科書(発行所)	物理(東京書籍)			
副教材(発行所)	新課程版 セミナー物理基礎+物理			

学 習 目 標	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高めるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。また、これまで学んだことを数学的に表現し、問題に対し解答を与えることができる。		
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができていないかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。	
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動等を通して評価する。	
留 意 事 項	単元別の小テストや課題、ノート提出等の実施時期については、教科担当者が指示を行う。実験は授業進捗の状況を見ながら行う。その際のレポートは他人の物を丸写しにしたりしないこと。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	3編 電気と磁気 1章 電場と電位 1節 静電気 2節 電場(電界)	電気を帯びた粒子が受ける力について学ぶ。電場について理解する。	
	5	3節 電位 4節 電界の中の物体 5節 コンデンサー	電位について理解する。また、電場の中の物体の運動について理解する。	
	6	2章 電流 1節 電流	簡単な電気がいりよを流れる電流の様子について理解する。	
	7	2節 直流回路	等価回路を用いたり、キルヒホッフの法則を用いたりしながら、回路について理解する。	
第 2 学 期	9	3章 電流と磁場 1節 磁場(磁界) 2節 電流が作る磁場 3節 電流が磁場から受ける力(電磁力)	磁場の定義について理解する。また、電流が作る磁場についても理解する。	
	10	4節 ローレンツ力 4章 電磁誘導と電磁波 1節 電磁誘導	ローレンツ力について学ぶ。 電磁誘導の法則について学ぶ。	
	11	2節 自己誘導と相互誘導 3節 交流 4節 電磁波	自己誘導・相互誘導について理解し、交流についても理解する。	
	12	4編 原子	原子分野について深く学び、理解する。	
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	化学	科目名	化学	理系必修						
科別	普通	科	学年	3年	コース名	進学	コース	4	単位	理系
教科書(発行所)	化学基礎(数研出版), 化学(数研出版)									
副教材(発行所)	セミナー化学基礎+化学(第一学習社), フォトサイエンス化学図録(数研出版)									

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な見方や考え方を養う。									
観点別評価	知識・技能	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考査、実験レポート、単元別の小テストの年間成績等で評価する。								
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考査の論述問題や実験レポート等で判断する。								
	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。								
留意事項	単元別的小テストや実験、課題等の実施時期については、進捗の状況のみで教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。									

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	・元素の分類と周期表 ・水素と貴ガス元素、ハロゲン元素、酸素と硫黄、窒素とリン、炭素とケイ素 (実験)ハロゲンの酸化力の比較 (実験)硫酸の性質	確認テスト 実験レポート
	5	第2章 金属元素(I) 典型元素 第3章 金属元素(II) 遷移元素	・アルカリ金属元素、アルカリ土類金属元素、アルミニウムとスズと鉛 ・遷移元素の特徴 ・鉄、銅、銀、金、亜鉛、クロム、マンガン、その他の遷移元素 ・金属イオンの分離と確認	確認テスト 中間考査
	6	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類 第2章 脂肪族炭化水素	・有機化合物の特徴と分類 ・有機化合物の分析 ・飽和炭化水素、不飽和炭化水素	確認テスト
	7	第3章 アルコールと関連化合物	・アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸、エステルと油脂 (実験)酢酸エチルの性質を調べる	確認テスト 実験レポート 期末考査
第2学期	9	第4章 芳香族化合物	・芳香族炭化水素 ・フェノール類と芳香族カルボン酸、芳香族アミンとアゾ化合物 ・有機化合物の分類 (実験)フェノールとアルコールの性質	確認テスト
	10	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物	・高分子化合物の構造と性質 ・糖類、アミノ酸とタンパク質、核酸 (実験)単糖・二糖の性質 (実験)タンパク質の性質	確認テスト 実験レポート 中間考査
	11	第3章 合成高分子化合物 演習	・合成繊維、合成樹脂、ゴム (実験)ナイロン66の合成 ・入試問題演習	確認テスト 実験レポート
	12	演習	・入試問題演習	期末考査
第3学期	1			
	2			
	3			

教科名	理 科	科目名	生 物	選 択					
科 別	普 通	科 学 年	3 年	コース名	進 学	コース	4	単位	理系選択
教科書(発行所)	高等学校 生物(啓林館)								
副教材(発行所)	新課程版 セミナー生物基礎+生物(第一学習社)								

学 習 目 標	生物や生命現象についての観察,実験や課題研究などを行い,自然に対する興味,関心や探究心を高め,生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め,科学的な自然観を育成する。演習を通じて,大学入試問題を解凍できる能力を育成する。								
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	生物や生物現象についての理解を深め,科学的に探究するために必要な観察,実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)							
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	自然の事物・現象の中に問題を見だし,見通しをもって観察,実験などを行い,科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)							
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	自然の事物・現象に主体的に関わり,科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)							
留 意 事 項	単元別の小テストや課題,ノート提出等の実施時期については,教科担当者が指示を行う。実験は授業進捗の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。観点別評価については,A・B・Cの3段階で学年末に評価する。								

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第8章 発生と遺伝子の発現 第1節 動物の配偶子形成と受精 第2節 初期発生の過程 第3節 発生と遺伝子の発現	・動物の配偶子の形成と受精,卵割から器官分化の始まりまでの過程について学ぶ。 ・細胞の分化と形態形成のしくみを理解する。	
	5	第9章 バイオテクノロジー 第1節 遺伝子を扱った技術 第10章 刺激の受容と反応 第1節 刺激の受容 第2節 神経	・バイオテクノロジーの原理とその応用を学ぶ。 ・外界の刺激を受容する仕組みを学ぶ。	中間考査
	6	第10章 刺激の受容と反応 第3節 神経系 第4章 効果器 第11章 動物の行動 第1節 生得的行動	・神経系を介して,からだか反応する仕組みを学び,刺激に対する反応を学ぶ。 ・刺激に対する動物個体の生得的な行動について理解する。	
	7	第11章 動物の行動 第2節 学習	・動物の学習行動について学ぶ。	期末考査
第 2 学 期	9	第12章 植物の環境応答 第1節 植物の生殖と発生 第2節 発芽と成長	・植物の配偶子形成と受精,胚発生と種子の形成,花器官について学ぶ。 ・植物が周りの環境からの刺激に応答する仕組みを学び,その際に植物ホルモンや光受容体が関係することを理解する。	
	10	第13章 個体群と生物群集 第1節 個体群とその変動 第2節 種内関係 第3節 種間関係	・生物の生活に影響を及ぼしている環境と生物との関係について理解する。 ・同種の個体や異種の個体が相互作用を及ぼし合っていることを理解する。 ・個体群レベルから順にそれぞれの段階で繰り上げられる生物のさまざまな営みと,環境との関係について理解する。	中間考査
	11	第14章 生態系 第1節 生態系と物質生産 第2節 生態系と人間生活	・生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぶ。 ・生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し,生物多様性の重要性を認識する。	
	12	問題演習	・近年の大学入試,大学入学共通テストなどの過去問を解く。	学年末考査
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	外国語	科目名	リーディングスキルズ		必修				
科別	普通	科	学年	3 年	コース名	選抜α・選抜・進学 コース	単位	4	文理共通
教科書(発行所)	入試対策問題集								
副教材(発行所)	Next Stage英文法・語法問題(桐原書店) / Date Base 4500(桐原書店) / 総合英								

学習目標	英語総合力育成の仕上げとして、特にリーディング能力に重きを置いて様々な事象を英語で理解する能力を磨く。		
観点別評価	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法、品詞の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することができるかを、小テストや定期考査等で評価する。	
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について英語で情報や考えの概念や要点、詳細や相手の意図を的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えたりすることができるかを、小テストや定期考査等で評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。	
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価は、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	大学入試問題演習		
	5	大学入試問題演習		中間考査
	6	大学入試問題演習		
	7	大学入試問題演習		期末考査
第2学期	9	大学入試問題演習		
	10	大学入試問題演習		中間考査
	11	大学入試問題演習		
	12	大学入試問題演習		期末考査
第3学期	1			
	2			
	3			

教科名 **外国語** 科目名 **コミュニケーションスキルズ** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **3** 年 コース名 **選抜α・選抜・進学** コース **3** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **入試対策問題集**

副教材（発行所） **Next Stage英文法・語法問題（桐原書店） / Date Base 4500（桐原書店） / 総合英**

学 習 目 標	情報や考えなどを場面や目的に応じて英語で書く能力を伸ばすとともに、アクティブラーニングを活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。	
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	英語の音声や語彙、表現、文法、品詞の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することができるかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について英語で情報や考えの概念や要点、詳細や相手の意図を的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えたりすることができるかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。観点別評価は、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	大学入試問題演習		
	5	大学入試問題演習		中間考査
	6	大学入試問題演習		
	7	大学入試問題演習		期末考査
第 2 学 期	9	大学入試問題演習		
	10	大学入試問題演習		中間考査
	11	大学入試問題演習		
	12	大学入試問題演習		期末考査
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名 **外国語** 科目名 **英語演習** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **3** 年 コース名 **選抜α・選抜・進学** コース **4** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **入試対策問題集**

副教材（発行所） **Next Stage英文法・語法問題（桐原書店） / Date Base 4500（桐原書店） /**

総合英語Vision Quest（啓林館） / 共通テスト(リスニング)対策問題集

学習目標	英語総合力育成の仕上げとして、問題演習を通じてリーディングとリスニングの能力をバランスよく伸ばしていく。	
観点別評価	知識・技能	文型や文法、語彙を知識として持っているかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	英語を読み聞きしたとき、情報や相手が伝えようとすることを理解することができるか。内容について、自分の考えを整理して英語で書くことができるか。また、自分が伝えようとする場面や目的に応じて英語で書くことができるか。小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価は、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	大学入試問題演習		
	5	大学入試問題演習		中間考査
	6	大学入試問題演習		
	7	大学入試問題演習		期末考査
第2学期	9	大学入試問題演習		
	10	大学入試問題演習		中間考査
	11	大学入試問題演習		
	12	大学入試問題演習		期末考査
第3学期	1			
	2			
	3			

教科名	保健体育	科目名	体 育		必修
科 別	普通	科 学 年	3 年	コース名	全
				コース	3
				単位	文理共通
教科書(発行所)	新高等保健体育(大修館)				
副教材(発行所)					

学 習 目 標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。				
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。			
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。			
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。			
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 				

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを速くに投げることができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 【バスケットボール】 A) 用具の扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールリングやボールを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルとスポーツの楽しみ方 	
	7			
第 2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・種目練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 【サッカー】 A) 用具の扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持たない時の動きを考え、空間に走りこんでパスをもらうことができるようにする。 ・パス&コントロール 動きながらボールを受け、動きながらパスをできるようにする。 ・ポジションと特性を理解し、作戦を考える。 ・ゲーム形式によるボール操作と空間に走りこむ動き。 ・安定したボール操作、力強いシュート、チーム戦術、審判法や試合運営。 	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進のための施策と課題 ・スポーツで「未来」を創る 	
	12			
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	保健体育	科目名	体 育		必修
科 別	普通	科 学 年	3 年	コース名	全
				コース	3 単位
教科書(発行所)	新高等保健体育(大修館)				
副教材(発行所)					

学 習 目 標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを速くに投げるができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 【バドミントン】 A) 用具の扱い B) 基本技術 フォアハンド バックハンド 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術を正しく身につけられる。 ・ネット型球技においての攻防の楽しさを味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・パートナーと役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ドロップ スマッシュ サーブ D) ダブルスでの攻防 E) ゲーム形式練習(ルールの理解) F) リーグ戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルとスポーツの楽しみ方 	
第 2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 ・種目練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 【軟式テニス】 個人技能テスト・ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解し、円滑にゲームを行う。基本練習をゲームに活かせるようにする。 ・スポーツ推進のための施策と課題 	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 ・ダンス 【創作ダンス】 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで1つのグループを作り、体育委員を中心に、ダンスリーダーを3～4名程度選出する。体育委員、ダンスリーダーを中心に曲決めをする。複数の曲を合わせた編集した曲も可とする。 ・ICTを駆使し、各クラスで練習を開始する。 ・振り入れがある程度出来たら構成の条件を提示する。 【ダンス演技の条件】 ・オリジナルの振り子を1か所以上入れること ・フォーメーションの変化や移動が3回以上あること 【発表会】 ・創作の集大成として発表会を行う ・他チームの演技を評価する 	
第 3 学 期	12	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツで「未来」を創る 	
	1			
	2			
	3			